



# NEWS

VOL.  
**164**  
2013・10月発行

## 5年 研修旅行 **日米ディズニーコース** — 世界中の人々を魅了し続ける仕掛けを探る旅 —

平成25年7月22日(月)～7月29日(月)

今年は昨今の社会情勢を考慮して中国コースを中止し、今年限りのコースということで日米ディズニーコースを実施しました。

5年生21名は前半の2日間は東京ディズニーシーとディズニーランドで、後半の4日間はアメリカ合衆国フロリダ州オーランドのディズニーワールドで過ごしました。

なぜディズニーは世界中の人々を魅了し続けるのか。このコースの目的はその仕掛けを探ることです。事前学習では、一人ひとりが自分の興味関心に基づいて視点を定め、仮説を立てました。例えば、サービスという視点からアプローチする。ディズニーのサービスに関する文献を読み進める。そもそもサービスとは何か、ディズニーらしいサービスとは何か、日米で違いがあるのか。答えが出れば、問いが生まれ、そして答えが生まれ…。生徒はたくさん

書籍を読み込みました。デザインや建築に興味がある生徒はテーマパーク内の建物や配置に秘密があると仮説を立て、そもそも建築とは何か、デザインとは何かといった基礎的なことから整理しました。医療や福祉に興味がある生徒は誰もが行きたいと思うということはバリアフリーが随所に見られることを予想し、バリアフリーに関する文献や看護に関する文献を読み進めました。

旅行期間中は、ミッキーの魔法にうっとりしながらも、自らが定めた視点からマニアックに夢の国の仕掛けについて探究しました。また来場者やキャストの方へのインタビューにも積極的に挑戦しました。日米に共通するディズニーの仕掛け、日本の繊細さ、アメリカのスケールの大きさなど多くのことを学んだ研修となりました。

### 英語でインタビュー&バリアフリーに注目

**Question 1** マニュアルとは別にあなたが考えたサービスはありますか？

**Question 2** 視覚障がい者の方が楽しめるように、ディズニーではどのような工夫がされていますか？

今回の研修旅行では、2つの質問について日米両方のキャストの方にインタビューを行いました。

質問①はもう少し回答が分かれるかと思っていましたが、意外とまとまった回答となりました。そして、日本もアメリカも共通してコミュニケーションに関するサービスが多くなされていることがよくわかりました。アメリカの「No」とは言わない」という回答は、実際にキャストの方に質問をしたときに「No」と言われたことがなかったことから実感することができました。どんなことであってもすぐには「No」とは言わずに、一度考えてからゲストの方に可能な限り応えるというのがディズニー流だと思いました。

質問②の回答も予想していたものとはるかに違っていたので驚きました。予想では、ディズニーランドではスロープを多めに作っているとか、盲導犬を連れて入っても大丈夫なレストランがあるなどといった具体的な策が次々に出てくるかと思いきや、日本でもアメリカでもスタッフの方々は口をそろえて「視覚障がい者の方も一般の方もみんな同じだから特に何も工夫をしていない」と回答してくださいました。最初はその回答に驚きましたが、よくよく考えてみれば、「身体障がいをもっていたり何か特別な事情があったりする人がいてもみんな同じという考え方は、すごくディズニーらしいと思いました。

日本で初めてキャストの方にインタビューするときはきちんと答えてもらえるかどうか、とても緊張してしまいました。しかし、気さくに質問に答えてくださったので安心しました。アメリカのディズニーランドでは、英語が通じるかどうか不安でとても緊張しました。外国の慣れない土地で、インタビューをする相手の方を選ぶのにも大変苦労しました。初めてインタビューをしたのはお土産屋さんの方だったのですが、会計の時にフレンドリーに話しかけて頂いたので「いける!」と思ってインタビューをしてみると、丁寧に答えてくださり、アメリカでもインタビューは大成功でした。 5年5組 石原 知佳



キャストの方へインタビュー



英語で学ぶ「ジェットコースターの物理学」



米ディズニーで「おもてなしの心」の講習中



W.ディズニーが理想とした住宅地を見学

### CONTENTS

- 5年研修旅行
  - 日米ディズニーコース ————— 1
  - イギリス ————— 2
  - パラオ ————— 2
  - 北海道(アウトドア) ————— 3
  - 北海道(カヌー) ————— 3
  - 屋久島 ————— 3
- 4年ニュージーランド語学研修 ————— 4
- 2年ニュージーランド交換留学 ————— 4
- 進学フォーラム ————— 5
- オープンスクール ————— 5
- 秋読書 ————— 5
- TOPICS ————— 6
- 文化祭Information ————— 6
- CLUB NEWS ————— 6



授業での交流

5年生28名がイギリスへ語学研修に行ってきました。ロンドンからバスで約2時間離れたハーストカレッジに2週間滞在し、午前は各レベル別の英語の授業、午後はスポーツ、アート、ミュージックなどの活動の中から各自で自由に選択して参加するアクティビティを通して、異なる文化を持つ同年代の生徒と交流を持ちました。また、ケンブリッジやブライトンなどへ遠足で行き、日本とは雰囲気の違ったイギリスの文化を感じ取りました。

初めのうちは伝えたいことをなかなか上手く表現できず悩む姿も見られましたが、スポーツなどの得意分野を生かして次第に積極的に関わることができるようになり、自分の行動や気持ち次第で、異なる文化を持つ人ともコミュニケーションがとれることを実感しました。2週間の滞在での様々な経験や交流を通して、大きな成長を遂げることができた研修旅行となりました。

イギリス研修旅行へ行くことができ、本当によかったです。これまで他国の人と関わることのなかった私には、初めての国際交流で、最初こそ緊張して積極的になれず後悔したものの、挨拶から始めてどんどん広がる友達の輪というものを感じることができました。自分の英語は本当につたなく、あまり話せたかどうかは分かりませんが、アクティビティやささいなきっかけで急に仲良くなれました。とにかくこの2週間はとても濃密ですべてが充実しており、この体験は確実に自分を成長させてくれました。

5年2組 中村 俊文



アクティビティでの交流

日本とは全く異なる環境で過ごす、普段気付けられないようなことが目に見えてきて、これからのグローバル社会に立ち向かうにはどのようにしなければいけないのか、世界の英語のレベルはどのようなものか肌で感じることができました。今回私たちが寮で過ごした環境は世界の縮図なのだと思います。

この研修旅行で自分自身についてだけでなく、自分の将来や日本が再び世界に認知されるにはどう変化しなければならないのか、という広い視野を持つて考えることができたと思います。今回の経験を生かし、他国の同世代に負けぬように英語力はもちろん、たくさんの知識を得て、グローバルな社会でも生き抜いていけるような視野の広い人材になりたいです。

5年5組 峠崎 仁美



パラオ国会議事堂内にて下院議長と

今年度も太平洋の島国「パラオ共和国」に本校5年生18名が行ってきました。日本から真南に3000km、日本とは時差もないパラオ共和国は、世界でも屈指の親日国で日本語を公用語とする州も有しています。初日にまず日本大使館を訪問し、その後パラオ共和国環境大臣や上院議長と、環境問題と観光資源についての議論を行い、記念撮影をしました。また本校の生徒が下院議会の傍聴する姿がパラオのテレビで紹介されました。2日目の海洋実習では、世界遺産に登録されているロックアイランドのミルクウエイやロングビーチ、また世界でパラオにしかない毒の無いクラゲ(ジェリーフィッシュ)にも直に触れました。3日目にはJICA(国際協力機構)で日本の国際協力について学び、JMAS(日本地雷処理を支援する会)では国際NGOの活動について学びました。最終日には世界最大のイルカの飼育施設でイルカと触れ合った後、パラオ高校の生徒達とバスケットボールやけん玉で交流を行い、さらなる両国の友好を深めることができました。

私は綺麗な海で泳ぎたいという理由でこのコースを希望しました。しかし実際行ってみると、自分が想像していた以上のものをたくさん経験して学んで帰ることができました。また観光地を楽しむだけでなく、環境大臣からのグリーンフィー(環境税)のお話や大使館でのパラオについてのお話、上院議員の方のパラオの政治に関するお話も聞きました。初めて知ることが多く、さらに質問をすることでより深い理解をすることができました。

5年1組 和泉 智香



ミルクウエイにて全員で輪になって

今回の旅を通して感じたことは、まず、パラオの人は本当に温かいということです。誰が来ても受け入れ、お互いを尊重し合い、親やお年寄りを大切にする文化があるこの国は思いやりにあふれていると思います。次に、平和が一番だということです。パラオの自然に触れたり、残留孤児だったフユコさんのお話を聞いたり、日本人墓地を訪問したりして、私たちが今当たり前のように過ごしているのは素晴らしいことだと思いました。これからも日本とパラオの友好関係がずっと続いてほしいです。

5年4組 高橋 梨沙

アウトドアスポーツ体験コース



ラフティングで心を一につ!



鳥の視点で大自然を堪能(エアートリップ)

5年生20名がアウトドアスポーツ体験コースに参加しました。今回訪れた然別湖は、大雪山国立公園の南に位置する湖です。標高807mにあり天然の湖では北海道内で一番高いところにあります。この周辺で、白雲山の登山、牛の乳絞り、エアートリップ、ラフティング、カヌー、フィッシングなど、様々なアクティビティーを通して、北海道の大自然を満喫しました。今回の研修を通し、多くの野生が息づく美しい自然の魅力に触れることができたのはもちろんのこと、互いに協力し合うことの大切さも学びました。

今回の研修で一番大きかったのは、同じ日本という国の中で、ここまで自分達が住んでいる場所と異なる場所があったのかと感じたことです。あたり一面に広がる美しい自然を維持していくために現地の方がとても努力されていることも知りました。このような自然を将来に残していく努力をしなければならぬと感じました。  
5年6組 宮本 大輝

今回の研修旅行で自然の素晴らしさを感じることができ、とても貴重な体験になりました。特に登山では、ガイドの方から植物や昆虫や動物の説明を聞き、それまではただ見過ごしていた自然に面白さを感じました。また、メンバーと共に協力し感動を共有したことで、より一層中身のある体験になりました。これから今回の経験を活かしていきたいと思っています。  
5年6組 船倉 純平

カヌー体験コース



まずは阿寒湖でカヌーレッスン!



カヌーツアーで釧路湿原を満喫!

北海道釧路市の阿寒湖から始まる研修旅行カヌー体験コースに男子生徒9名が参加しました。カヌーを切に希望した生徒たちにとって北海道の大自然の中での体験は一生心に残る思い出となりました。阿寒湖で丸1日基本をみっちり習ってから2日目、3日目に釧路川カヌーツアーに参加しました。釧路湿原の雄大さ、神秘さは、広島では決して味わうことができない素晴らしいものでした。日々カヌーに慣れ、技術も上達していく生徒たちは、カヌーに乗り込み水上に漕ぎ出した時の不思議な感動にとりつかれました。朝から夜中まで懇切丁寧につき添ってくださったネイチャーセンターの方々との生活や、2人で協力し合ってカヌーを漕ぎ切ったことなど、自然の雄大さだけでなく、人との暖かい繋がりを体験できた素晴らしい研修旅行でした。

この研修旅行で学んだ一番大きなものは、おもてなしの心だと思います。今回いたるところで様々な人からおもてなしを受けました。インストラクターの方や添乗員さん、旅館の方や施設の方などがずっと世話をしてくださいましたが、そういった助けがなければこの研修旅行は成り立たなかったと思います。他の人のことを考え、自分にできる限りのことをする。そういうおもてなしの心を常に持ち続けようと思いました。  
5年4組 今川 大樹

今回研修旅行に行き、普段暮らしている広島との違いに驚かされました。見渡す限りビルのない広大な大地や、人の手が加わっていない自然があり、そんな中でのんびり過ごせた6日間は、自分に良い刺激を与えてくれました。  
その一方で、研修旅行中にガイドの方の話を聞いていると、自然を守るために様々な保護活動が行われていることを知りました。このような活動が行われていなければ、このような体験ができませんでした。今ある自然を守って子孫に残して行かなければならないと思いました。  
5年5組 宮本 天宙



里山の手入れを体験



安房川をカヤックで満喫

屋久島は直径20数kmの小さな島ながら、1000mを越える山々が連なり、「九州から北海道までの気候」が含まれる大変珍しい環境です。  
5年生18名は、前半でシュノーケリング、トレッキング、カヌーなどのアクティビティを通じ、屋久島の大自然を満喫しました。後半では、農林水産体験を通じて島に暮らす人々と自然との共生について学びました。  
屋久島の大自然を心から愛する様々な人と関わりながら、五感をフルに使い、海山川全てを味わい尽くす大変貴重な研修旅行となりました。

屋久島にはひたすら自然しかなくて、アウトドアでの体験もとにかく自然に溶け込むようなものばかりだった。今まで遠くの山は平面的に見ていた気がするが、広島に帰ってからも凹凸や緑の色の差まで見て取ることができた。少しの間自然の中だけで、身の回りのことをきちんと把握できるようになった気がする。  
5年6組 松永 祐佳

ナイトツアーでは光るキノコの菌を見ることで人工物に頼り過ぎないということも学んだ。懐中電灯を消し、月明かりだけを浴びて光る地面はとても美しく、自然の力を肌身で感じる事ができた。人間と自然とが共存して生きている屋久島には無駄がなく、それでいてしっかりと生が根付いている。エコな屋久島で学んだことをこれからの生活に活かしていきたいと思う。  
5年3組 増岡 伊織

## 4年ニュージーランド語学研修

平成25年7月21日(日)～8月13日(火)



NZの文化や自然にも触れました

4年生20名は約3週間、NZでの語学研修に参加しました。高校生といえども最初は英語でのコミュニケーションに戸惑っていましたが、1週間も経つ頃には友達との会話にも英語が交るぐらい英語でのコミュニケーションに慣れていました。また、今年度は20名それぞれがOtumoetai College (オツモエタイカレッジ)の生徒と一緒に様々な授業を受けました。もちろん、すべて英語での授業です。中には日本ではなかなか受けることのない内容の授業を受けた生徒もいます。週末にはNZの町を周り、これもただの観光ではなくNZの文化や自然に触れる貴重な経験となりました。すべてのことが新鮮で、NZの良さだけでなく、日本の良さにあらためて気付くよい機会となりました。



Otumoetai Collegeの前でランデル校長先生と記念撮影



テクノロジーの授業

私はNZへ行ったものの見方が変わったと思います。行く前は一つのことに対して一つの見方しかできませんでした。今は一つのことに対して二つ三つの見方ができるようになったと思います。異文化を知り、自分とは考え方や発想が全く異なる中で生活していると、一つひとつの行動に対してなぜこんな風にするのだろうかと考えました。このように行動の理由を考えるようになると、異なる見方ができるようになりました。まだ「成長したな」と思うことは少ないけれど、これからの生活にちょっとずつでも表れてほしいなと思います。 4年3組 坂元 璃々香

## 2年ニュージーランド交換留学

平成25年7月28日(日)～8月13日(火)



8月6日のスピーチ

2年生20名が、夏休みの約2週間、ニュージーランドのバサデナ中学校で学習しました。5月に受け入れた留学生の家にホームステイをしながら、学校で授業を受け、行事に参加しました。マオリ文化に関する授業、博物館や農場の見学では、ニュージーランドについて深く知ることができました。8月6日には全校集会でスピーチをし、広島で学ぶ中学生として、平和への思いを伝えました。また、日本の遊び、歌や踊り、合気道や空手などの紹介をし、文化交流を楽しみました。コミュニケーションの大切さを感じ、バサデナ生とかけがえのない友情を育み、文化や習慣が異なる国で生活できたことで自信をつけ、最高の表情で広島に戻ってきました。英語学習への意欲もさらに湧いてきたようです。



オークランドのクルーズ



バサデナ中学にて

最初パートナーの家に行った時、初対面にも関わらず、ホストファミリーのみんなはとても温かく迎えてくれて、本当に家族のように接してくれて嬉しかったです。バサデナ中学校では、困った時、自分のパートナーだけでなく、クラスみんなや先生に助けてもらいました。一緒に授業を受けて、積極的に話もできました。言葉は違っても国境を越えて友達ができ、そのことも大きな収穫でした。ニュージーランドに行ってきたさんの貴重な体験ができて、本当によかったです。 2年2組 橋本 幸音

私がニュージーランドで気づいたことは3つあります。1つ目は普段自分がいかに大人に世話してもらっているかです。これからはもっと自立しようと思いました。2つ目は周りにアンテナを張ることの重要性です。学ぶ機会が与えられているのに、ただぼーっとしているのはもったいないです。これは普段にも同じことが言えると思います。3つ目はコミュニケーションの大切さです。何でもいいから、わかりあいたいと思う気持ちを「表す」ことが重要です。そうすれば言葉が知らなくても必ずわかりあえると、ホームステイやバサデナ中学での生活を通して感じました。 2年3組 六信 奈波

## 進学フォーラム

平成25年8月31日(土)

卒業生3名を迎え、進学フォーラムが実施されました。先輩たちはそれぞれの大学合格までの体験を、熱心に切実に在校生に語ってくれました。参加した生徒たちは、これからの人生の分岐点で起こる「選択・決定」を自分でするための多くのヒントを得ました。卒業生からのアドバイスを紹介しておきます。「オープンキャンパスでの体験は受験勉強の底力」「模試での悔しい思いをバ

ネにして!」「定期考査で結果を残す」「勉強以外の学校生活も大切!」「とことん考えてから質問」「意志を強くもって、諦めずに最後まで続ける」「あらゆる困難苦難さえプラス思考で!」「自分の夢を達成するために、自分で決める」「好きな科目から」「平日5時間、休日10時間以上」「自習室の活用」「勉強している人がいる所で勉強」

### パネリスト

豊原 宗一郎【東京工業大学 工学部第5類】

石原 優希【京都大学 文学部人文学科】

京極 千愛【山口県立大学 看護栄養学部看護学科】



京極先輩の話に聞き入る生徒



豊原先輩からのアドバイス



石原先輩との個別懇談

## オープンスクール

平成25年7月15日(月)



来校者を演奏でお見送り



教科の学び体験



クラブ活動体験

7月15日海の日に開催した本校のオープンスクール「海の日は、なぎさへ」には、たくさんの小学生や保護者の方々が来校されました。今年で2回目を迎えるオープンスクールですが、英語や数学など教科の学び体験やクラブ活動体験、本校生徒が質問に答える交流カフェ、中学入試問題解説など、本校を紹介する催しが盛りだくさんでした。授業を体験していた小学生の皆さんの表情はいずれも真剣そのもので、熱心に取り組んでいました。またクラブ活動体験では本校の生徒たちと一緒に、積極的に活動する姿が見られました。在校生の言葉遣いや案内の仕方、明るさなど様々な面を来校された方々からほめていただき、盛況のうちに幕を閉じました。

## 秋読書



### 『カオスの紡ぐ夢の中で』

金子邦彦 [早川書房]

北京の蝶の羽ばたきが、ニューヨークの天候を左右する。そんな話にわくわくする君。枯れ葉がひらひら舞い落ちるのは規則性があるからだろうか。それが気になってしかたがない君。そんなみなさんにお薦めします。本書は複雑系やカオスといった難しい話を平易に面白く紹介している名著です。秋の夜長に是非どうぞ。

(片嶋 誠先生より)



### 『「読み」の整理学』

外山滋比古 [ちくま文庫]

「読めても、読んでいない」という経験は誰にでもあることでしょう。音読はできても、その意味が理解できない。単語一語一語の意味は分かるのに、文章全体の意味となると分からない。こうなると今度は文章を読むことが苦痛になり、読むことすらやめる人もいるかもしれません。

このような事態をどう理解し、どう向き合っていけばよいのか。それを知りたい人におすすめの一冊です。

(吉井 充代先生より)



### 『異邦人』

アルベール・カミュ 窪田啓作 訳 [新潮文庫]

先行者たちが構築した枠組みは、後発者たちにとって、あるいは道標になり、あるいは抑圧になる。かつて、世の流れを自明なものとして受け入れられない者たちの命がけの戦いとして「文学」はあった。窪田啓作訳のカミュ『異邦人』には、過剰なまでの「文学」性がある。その香気は、「文学」が死にかかっている今、ますます強く立ち上る。新しい時代を切り拓く、志ある若者に読んで欲しい。

(岡田 真範先生より)

## 第40回全国中学生テニス選手権大会



第40回 全国中学生テニス選手権大会

団体としては2度目の全国大会（名古屋市）出場となりました。団体戦初戦は、昨年度優勝の東海大学菅生高等学校中等部を3-2で退け、2回戦の同志社中学校と熱戦を繰り返したのですが、2-3で惜敗。しかしながらベスト16という輝かしい結果を残すことができました。また、個人戦シングルスは、竹野光稀君（3年2組）、澤田文弥君（3年3組）が共に初戦で惜敗。ダブルスでは、竹野光稀君、澤田文弥君ペアが2回戦進出、ベスト16というすばらしい結果となりました。在校生、保護者の方々の応援に感謝し御礼申し上げます。

● 8月19日(月)～25日(日) ●

## 第66回全国高等学校陸上競技選手権大会



● 7月30日(火)～8月3日(土) ●

今年のインターハイは大分銀行ドームで行われました。チームとして男子4×100mリレー、個人では男子100m、200mに全国制覇を目指して参加しました。個人種目出場の池内雅貴君（6年6組）を中心に、リレーでは見事チームベスト記録更新。しかし、全国の壁は高く、予選を突破することはどちらもできませんでした。

来年も後輩が先輩の想いをバトンとして受け継ぎ、さらなる成長を見せてくれることを期待します。大会期間中も含め、いつも保護者や在校生の応援は選手に力を与えてくれます。心より感謝し御礼申し上げます。

## 文化祭Information

今年の文化祭テーマは『Progress』です。このテーマは、1年3組の濱石歩美さんのアイデアで、「全校生徒の力を合わせて、これからのなぎさの発展につながるような

文化祭にしたい」という想いが込められています。皆が力を合わせ、なぎさ生らしい文化祭を作り上げていきましょう。

**1日目** 校内発表会 | 日時：平成25年11月8日(金)  
場所：本校体育館

**2日目** 一般公開 | 日時：平成25年11月10日(日)  
場所：本校校舎・体育館・グラウンド

## CLUB NEWS

### 高校水泳部

●平成25年度広島県高等学校選手権水泳競技大会  
日程：平成25年6月29日(土)・30日(日)  
成績：女子400個人メドレー 小山 敦子(6-3) 第8位  
【中国大会出場】

### 高校硬式テニス部

●平成25年度第51回広島市夏季高校生テニス選手権大会  
日程：平成25年8月1日(木)・3日(土)・5日(月)・7日(水)  
成績：男子シングルス  
丸石 拓海(4-1) 準優勝  
●平成25年度第66回広島県高等学校テニス新人大会  
(個人戦)広島地区予選  
日程：平成25年8月19日(月)・20日(火)  
成績：男子ダブルス

武久 翔悟(5-4)・丸石 拓海 【県大会出場】  
上田 悠太郎(5-6)・山崎 将(5-4) 【県大会出場】  
椿田 悠馬(5-5)・中村 俊文(5-2) 【県大会出場】

男子シングルス  
武久 翔悟 【県大会出場】  
上田 悠太郎 【県大会出場】  
中村 俊文 【県大会出場】  
丸石 拓海 【県大会出場】

女子ダブルス  
玉田 千奈(5-4)・馬屋原 月子(4-2) 【県大会出場】  
女子シングルス  
石原 知佳(5-5) 【県大会出場】  
玉田 千奈 【県大会出場】  
馬屋原 月子 【県大会出場】

### 高校陸上部

●第63回広島地区高等学校夏季陸上競技選手権大会 兼  
第63回広島県高等学校対抗選手権大会広島地区予選会  
日程：平成25年8月7日(水)・8日(木)  
成績：男子100m 角山 巧(6-6) 第4位

男子400m 城本 将臣(5-4) 第7位  
男子110mハードル 有田 竣哉(5-2) 第8位  
男子4×100mリレー 第3位  
平江 瑞基(5-6)・恵良 昂平(5-1)・城本 将臣・有田 竣哉  
男子4×400mリレー 第7位  
角山 巧・城本 将臣・平江 瑞基・恵良 昂平

### ●第63回広島県高等学校対抗陸上競技選手権大会

日程：平成25年8月24日(土)・25日(日)  
成績：男子100m 池内 雅貴(6-6) 第2位  
男子100m 角山 巧 第4位  
男子4×100mリレー 第5位  
恵良 昂平・池内 雅貴・平江 瑞基・角山 巧  
男子4×400mリレー 第6位  
角山 巧・城本 将臣・恵良 昂平・有田 竣哉

### 中学陸上部

●第59回全国日本中学校通信陸上競技広島県大会  
日程：平成25年7月6日(土)・7日(日)  
成績：2年女子100m 鎌田 なるみ(2-3) 第7位  
一部女子100mハードル 鎌田 なるみ 第6位  
一部女子4×100mリレー 第6位  
丸山 奈々花(3-1)・鎌田 なるみ・齋藤 理加(2-1)・  
三戸 佳織子(2-2)

### ●第40回広島県中学校陸上競技選手権大会

日程：平成25年7月20日(土)・21日(日)  
成績：2年女子100m 鎌田 なるみ 第6位  
共通女子100mハードル 鎌田 なるみ 第7位  
共通女子4×100mリレー 第8位  
丸山 奈々花・鎌田 なるみ・齋藤 理加・三戸 佳織子

### 中学硬式テニス部

●第40回全国中学生テニス選手権大会中国予選大会  
日程：平成25年7月24日(水)～26日(金)  
成績：男子団体戦 第1位 【全国大会出場】  
竹野 光稀(3-2)・澤田 文弥(3-3)・

丸山 直人(3-5)・瀧内 秀斗(3-4)・築地 康(3-2)・  
小田 真太郎(3-1)・猪 裕太(3-3)・  
村竹 裕貴(2-1)・橋口 詩穂(2-3)・秋吉 大地(1-1)  
男子シングルス  
澤田 文弥 第2位 【全国大会出場】  
竹野 光稀 第3位 【全国大会出場】

### 男子個ダブルス

竹野 光稀・澤田 文弥 第2位 【全国大会出場】

### ●第61回広島市中学校総合体育大会テニスの部

日程：平成25年8月8日(木)・9日(金)  
成績：男子団体戦 第1位  
竹野 光稀・澤田 文弥・丸山 直人・瀧内 秀斗  
築地 康・小田 真太郎・村竹 裕貴・秋吉 大地  
男子ダブルス

竹野 光稀・澤田 文弥 第1位  
丸山 直人・村竹 裕貴 ベスト8

女子ダブルス  
沖 菜摘(3-3)・横町 祐実(3-2) ベスト8

### ●第40回全国中学生テニス選手権大会

日程：平成25年8月19日(月)～25日(日)  
成績：男子団体戦 2回戦進出 ベスト16  
竹野 光稀・澤田 文弥・丸山 直人・瀧内 秀斗・  
築地 康・小田 真太郎・猪 裕太・村竹 裕貴・  
橋口 詩穂・秋吉 大地

### 男子シングルス

竹野 光稀 1回戦敗退  
澤田 文弥 1回戦敗退  
男子ダブルス  
竹野 光稀・澤田 文弥 2回戦進出 ベスト16

### 中学野球部

●平成25年度広島市総合体育大会広島市大会  
日程：平成25年8月22日(木)  
成績：ベスト16